

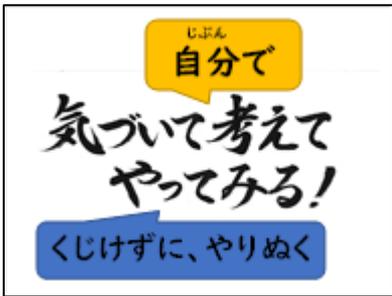
令和4年度加計小学校 1学期始業式 式辞



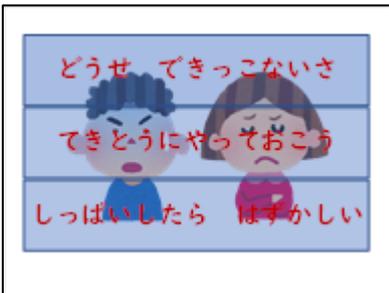
新しい1年が始まりました。校庭の桜は、春休みの間に満開になり、こうして加計小学校の始業式をお祝いしてくれているようです。

さて、先ほど、新しい先生方を迎え、皆さんはそれぞれ1つ学年が進級しました。明日には17名の1年生が入学してきます。2年生は1年生の1つお兄さん、お姉さんになります。1年生をよろしくお願いしますね。3年生、4年生は中学年として、低学年さんのお手本になるようにがんばってください。5年生。いよいよ高学年

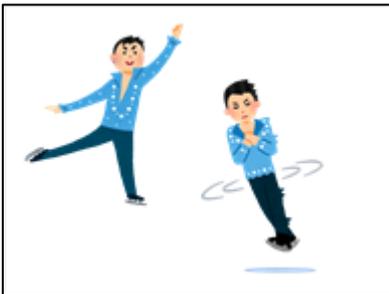
の仲間入りです。1年後、6年生からリーダーのバトンを受け取るために、6年生をよく観察しながら準備をしてください。そして6年生。リーダーとして、加計小の歴史をどんなふうを描くのかは皆さん次第です。私をはじめ先生方は全力でそのお手伝いをします。103名の児童の皆さん、20名の先生方と合わせて123人で歴史の1ページを創って行きましょう。



加計小学校の目標は「気づいて考えてやってみる！—自分を大切に 人を大切に 力を合わせて—」です。自分で考えて動く、そして最後までやり抜くことを今年も引き続き頑張ってください。でも、昨年と同じではつまらないので、今年はまだもう1つバージョンアップしますよ。それは「突き抜けよう！」です。突き抜ける



というのは、何か「壁」のようなものを「壊して通り抜けていく」ということです。実は、私たちの周りには目に見えない「ガラスの壁」があります。それは例えば「どうせ自分にはできない」とか「ま、適当でいいんじゃない？」とか「失敗したら恥ずかしい」という気持ちの「壁」です。その気持ちが、自分の成長のチャンスを止めてしまうことがあります。

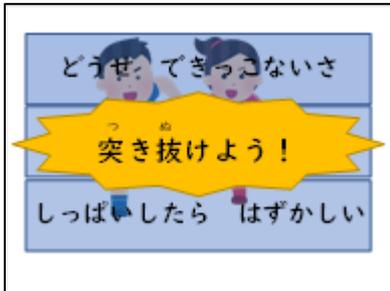


フィギュアスケートの羽生弓弦さんが、冬のオリンピックで「4回転半のジャンプ」にチャレンジしたことを知っている人もいるでしょう。氷の上を滑りながら、ジャンプして4回クルクルとまわって着氷する技です。氷の上を歩くことすら怖い私にとっては、その上、ジャンプして4回も回るなんて想像すらできません。いつ頃からそんな技にチャレンジするようになったのか気になって調べてみました。



スケートが競技として行われるようになったのは、1880年ごろ。今からおおよそ140年も前です。1882年、氷の上でジャンプして1回回るという技をできる人が出てきました。初めてその1回転を見た人々はびっくりしたでしょうね。スケートをしている人はきっと自分もジャンプして1回転できるようになろうと練習をし

たことでしょう。そのうちに2回転できる人が出てきました。2回転のジャンプができるようになったのは、1948年。なんと66年もたってからのことでした。3回転ができるようになったのは、1978年。さらに30年かかりました。そして、4回転半ジャンプを羽生選手が行ったのが2022年。つまり3回転から44年もたっています。5回転ジャンプができるようになるのはいつでしょうね。きっと未来の誰かがやっけてのけることでしょう。



なぜこんな話をしたかということ、先ほどの「突き抜ける」と関係があります。もし、人が氷の上でジャンプして回るなんてできっこないと思っていたら、だれも練習しなかったでしょう。2回転が精いっぱいでもうそれ以上は無理！と思ったら、3回転や4回転の技は生まれなかったでしょう。「目に見えない気持ちの壁」を突き破って、可能性の限界を超えていった人がいたから、羽生選手の4回転半ジャンプへのチャレンジがあるのだと思います。

加計小の皆さんにも、この1年、「目に見えない気持ちの壁を突き抜けて、あなたの可能性のその先に突き抜けていこう！」と呼びかけたいと思います。



さあ、123名の船出です。皆さんと一緒にどんな旅ができるのか、皆さんがどんなことにチャレンジするのかとても楽しみにしています。1年後に成長した自分たちに大きな拍手が送れるようがんばりましょう。

令和4年4月6日

加計小学校長 萩原 英子